

### 1 現状の課題と政策の方向

バイオマスの利活用は、農山漁村の活性化や地球温暖化の防止、循環型社会の形成といった我が国が抱える課題の解決に寄与するものであり、その推進が求められている。また、エネルギーの安定供給等の観点から、国産の再生可能エネルギーを導入することが重要であるほか、農山漁村における再生可能エネルギーの導入に当たって、地域に豊富に存在するバイオマス、水、太陽光等の資源を有効活用し、地域の所得向上等につなげることも重要である。

### 2 関東管内の取組状況

バイオマスを製品やエネルギーとして活用していくことは、農山漁村の活性化や地球温暖化の防止、循環型社会の形成といった我が国の抱える課題の解決に寄与するものであり、その活用の推進を加速化することが強く求められている。

#### (取組の概要)

農林水産省をはじめとした関係府省（内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）の連携の下、バイオマス産業都市の選定・支援などの施策を通じてバイオマスの活用を推進している。

#### 用語の解説

「バイオマス」とは、生物資源 (bio) の量 (mass) を表す概念で、「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」である。バイオマスは、地球に降り注ぐ太陽のエネルギーを使って、無機物である水と二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) から、生物が光合成によって生成した有機物であり、私たちのライフサイクルの中で、生命と太陽エネルギーがある限り持続的に再生可能な資源である。

#### (事例) メタン発酵バイオ液肥等の利用促進 (神奈川県)

株式会社Jバイオフードリサイクルでは、飲食店等から排出される食品廃棄物を活用して、メタン発酵バイオガス発電及び発酵残渣の肥料利用に取り組んでいる。メタン発酵バイオガス発電から発生する発酵残渣は、普通肥料（バイオ液肥 「はまのしずく」、バイオ固形肥料「はまみのり」）として、農林水産省に登録して販売を行っている。

また、バイオ液肥を圃場に実証散布して慣行栽培との生育状況や収量の比較を行ったほか、最適な散布方法の検討、病害抑制効果の検証等を行い、その結果、生育及び収量に大きな差がなく、バイオ液肥の有効性を確認した。さらに、肥料のブランド化を目指し、野菜シールを作成して農家への提供を行った。



【野菜シール】



【バイオ液肥を使用し生産した野菜】

## (2) 再生可能エネルギーの利活用の推進

太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等の再生可能エネルギー源は、持続的な利用が可能であるとともに、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）をほとんど排出しないという優れた特徴を有しており、我が国の農山漁村において豊富に存在する資源である。バイオマスを製品やエネルギーとして活用していくことは、農山漁村の活性化や地球温暖化の防止、循環型社会の形成といった我が国の抱える課題の解決に寄与するものであり、その活用の推進を加速化することが強く求められている。

### (取組の概要)

農林水産省をはじめとした関係府省（内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）の連携の下、バイオマス産業都市の選定・支援などの施策を通じてバイオマスの活用を推進している。

### (事例) バイオマス活用による持続可能なエネルギー導入（群馬県）

NTT東日本グループでは、従前より高崎市の委託事業として、給食残渣のリサイクル（堆肥化）を行ってきた。令和6年6月現在、NTT東日本グループの株式会社ビオストックが新たに同敷地内にバイオガスプラントを建設し、新たに再生可能エネルギーを創出する施設へリニューアルを進めている。（令和6年度竣工予定）

原料は市内で発生する給食残渣と食品廃棄物を予定しており、自施設や地域での電力利用及び堆肥の製造により、地産地消型の資源循環システムの構築を図ることとなっている。



【東京都調布市にある同型設備】